

# えくてびあん

I 立川と語るよ、立川に生きよう  
JANUARY 2000 EKUTEBIAN Vol.13 No.136

●第15回 ベスト立川人・展 (1月17日～23日 / 於・ルミネギャラリー)



表紙の人 / 丸井美奈子 (西砂町) 撮影 / 細江英公

# 和風

2000年の夢を乗せて、さあ揚がれ!

今回で「くらふと画報」の連載は最終回。最後はめでたく風づくりで締めくくるとしよう。先生は立川市クラフト同好会の三浦さん。風には様々な形や作り方があるが、今回はシンプルな上に作り甲斐もある長方形のスタイルに挑戦した。材料は和紙（障子紙でも可）、竹、そして風糸のみ。作る際に勘違いしやすいのは“軽いほど良い”という発想。「風が受ける風は予想以上に強いもの。軽さよりも強度に気をつけ、骨組みの竹は細過ぎないようにしましょう」（三浦さん）。実際に揚げてみて“シッポ”でバランスをとれば完成だ。



今月の先生

三浦 高 さん



1

骨は全部で6本用意。竹の長さは紙の寸法からややみ出るくらい、幅は1cm弱ぐらいが良い。



2

まず上部と下部の骨の貼りつけ。紙を竹に巻き付けるように、貼り付ける。接着剤は「のり」が最適。



3

残りの骨は中央を交差させ、のりと糸でしっかりと固定してから紙にとりつける。



4

骨を紙に装着。まず中央の交差部を糸で縫いつけ位置を決めてから、各先端を縫いつける。



5

上辺の裏側に「張り糸」を張る。風の揚がり方によって本体の反り具合を調節する大切な部分だ。



6

上辺の二角と本体中央部、下から1/3あたりに「糸目糸」をつける。長めにとりバランスを見る。



# ゴルフって思いやりのスポーツなんですよ。 小林正義さん

## ゴルフ教育研究所・主宰

**啓介** 僕の学生時代、大学の近くに打ちっ放しのゴルフ練習場があったんです。それである日、先生から「オマエら将来、社長になるんだから、あそこで練習してこい」なんて云われて。  
**小林** (笑)。

**小林** 接待ゴルフとか (笑)。  
**啓介** 政治家の密談の場ですか、おエライさんが銀座のおネエさんを連れていくとか (笑)。そういう、スポーツとしての本質とはかけ離れた感じがするのが嫌ですね。

**小林** 実はそれ、日本だけなんですよ。  
**啓介** あ、そうなんですか。  
**小林** 日本でゴルフというところ、どうしても「高い」でしょう。アメリカなんかだと

■小林正義 (こぼやしまさよし) / 立川高校で教鞭をとっていた小林さんは元々柔道選手として活躍。30歳の時、初めて出たコースで経験者を相手に大勝。以来、数多くのクラブ選手権で優勝。アメリカで指導者教育を受けるなど、小林さんの生活にゴルフは欠かせぬものに。その後、日本初のゴルフ専門学校「東京ゴルフ専門学校」主任教授を経て、現在「ゴルフ教育研究所」を主宰。著書に「基本レッスン GOLF」(大修館書店) など。柏町在住。63歳。JGAハンディキャップ最高時「0」。  
■立井啓介 (たていけいすけ) / えくてびあん編集人。



とちょっと一般的で、家族で気軽にできるものとして普及されているんです。  
**啓介** 高いから接待として価値があるわけだ。じゃ、安くできればいい。  
**小林** ここ数年、バブルがはじけて以降はそういう傾向になってるんですよ。ゴルフ場側でも、どんどん安くプレイできるようなシステムに移行しつつあります。本来スポーツなんですから、みんなが気軽に楽しめるような環境ができれば一番ですよ。

**啓介** そもそも小林さんは立川高校の先生をされていたそうなんですけど、ゴルフはいつから始められたんですか。  
**小林** 三十になってからなんです。当時、立高の夜間部で保健体育の教師をしてたんですが、もともと私は若い頃から柔道一本だったんですよ。

**啓介** それはどうしてゴルフに?  
**小林** たまたま知り合いの方に誘われまして連れてってもらったんです。そうしたら、生まれて初めてやったんですが、なぜか勝ってしまったんです。  
**啓介** 体育の先生なわけだから、スジがいい。  
**小林** それでおだてられましてね (笑)、病みつきになっちゃったんですよ。まだ若くてお金もないんで、自宅の庭に網を張って、自前の練習場を造って練習したりしてね。その後、競技会にもどんどん出るようになって。

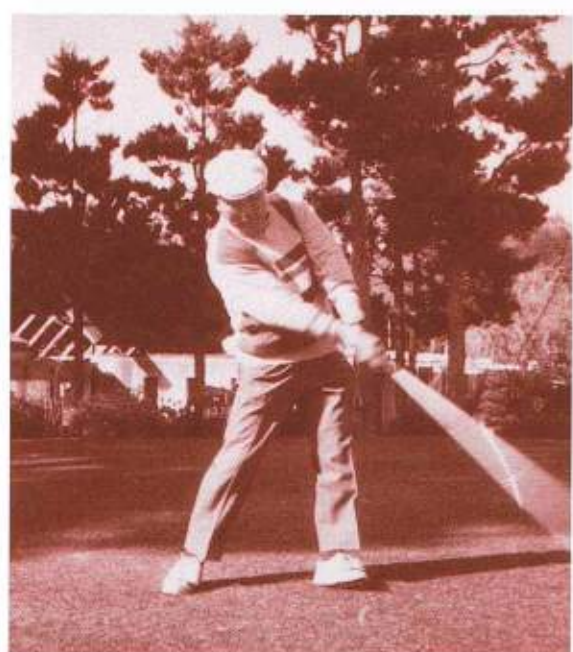
**啓介** ハンディキャップが「0」ということなんですけど、ハンデっていうのはわかりやすくいうと、どういう仕組みになっているんですか。  
**小林** ゴルフは複数のコースを廻って競技するスポーツなんですけど、それぞれのコースに基準となる数があるんです。たとえばAというコースはボールを4回打

て、Bのコースは3回打って上がりだとか、Cのコースは2回打って上がりだとか、ひと通り廻り終わると、普通は72回打って上がる計算になるんですけど、それで実際に自分の打った数と基準の数の差がハンデになるわけです。  
**啓介** その差が、少なければ少ないほど巧いということですか。じゃ、小林さんの「0」というのはほとんどない数字なんだ。現在はご自身がプレイするだけじゃなく、指導の方を主とされているとか。  
**小林** 四十八歳で帝京大学に移って講師をしてたんですけど、その頃、日本で初めてのゴルフの専門学校が出来る話を持ち上がりまして、その立ち上げから参加したんです。そこは指導者を育成する学校なんですけど、指導法や理論、体系づけなどを研究するようになりましてね。まあ、そんなこんなで現在まで至ってしまっただけなんです。

**啓介** 小林さん、ゴルフの最大の魅力というの、どういふところなんですか。  
**小林** そうですねえ、まず挙げるとすれば、競技生命が長いということがいえるでしょうね。  
**啓介** 長い期間にわたって、歳をとってもできるということですか。  
**小林** ええ。たとえば私は柔道をやっている三十の頃で五段だったんですけど、しかし、いくら五段だからといっても若手の三段と闘ったら、すでに若手には敵わないわけですよ。  
**啓介** ああ、体力という部分でね。  
**小林** でもゴルフだとそんなことはないんです。高齢である方がなかるうが関係ない。私自身、ハンデが0になったのは六十近くになってからですから。

**啓介** でもそれは小林さんが三十歳でゴルフを始められて、今までその道一本を極めてきたからこそ云えることではないでしょうか。  
**小林** ええ、私も柔道をやっていたんですけど、柔道は年齢が上がるにつれて、体が大きくなるにつれて、たまたま大きいと思うんですよ。たとえばハンディキャップの考え方にしろ、可能性を信じるという姿勢にしろ、まさに教育者の視点ではないですか。  
**小林** ああ、そうかも知れませんがね (笑)。  
**啓介** 大勢の生徒さんがいて、それぞれ得意不得意があるなかで、各々の良いところを見ようとする。これはハンディキャップの本質に近い感じがしますよね。

**啓介** 今後はどういった活動をされていく予定ですか。  
**小林** 五日市のクラブで競技委員



でしようか。たとえば僕はたまたま俳句をやるんですが、松尾芭蕉が「俳句は老人の文学」だと云ってるんです。それは若い時からコツコツとやってきて、老境に達してようやく開花するという意味に解釈されているんですが、小林さんが云われていることは、まさにそのことじゃないかと。  
**小林** 確かにプロを志すとか、競技の失敗に重きを置くという人にはそう云えると思います。若い頃からそれを目指して訓練している人にはやはり敵わないですから。でも私は、ゴルフというスポーツの独特な点、愉しみ方という点から考えるとまた違うと思うんですよ。高齢になって始めたとしても巧くなつていく、上達していくという可能性がゴルフにはあるんです。  
**啓介** 歳をとってから始めても上達しますか。  
**小林** ええ、そこが面白い。可能性があると云うことが信じられるスポーツなんです。だから私は六十歳以上の「シニア」と呼ばれる世代の人にぜひやっていただきたい。ゲートボールよりもお勧めです。

**啓介** そういえば、さっき話に出たハンディキャップ制というの、他のスポーツにはない独特なものですか。  
**小林** ええ、ええ。その通りです。たとえばハンデ0の人とハンデ40の人がゲームをして、前者が72で廻ったところを後者は112で廻ったとします。そうすると、両者は引き分けとなるわけです。実力の差がある人同士と一緒に愉しめて、誰にでも勝てるチャンスがある。自分の力をフルに発揮できた人こそ栄冠に輝くことができるわけです。  
**啓介** ビギナーと一緒に廻ると、熟練者にとつては足手まといになるなんてことはないんですか。  
**小林** そういう人ははっきり、ゴルフには向かないと思います。自分自身の力と向き合うことが重要なわけですから。  
**啓介** ゴルフってのは「思いやり」のスポーツなんだな。  
**小林** ええ、他の競技には見当たらない要素があるでしょうね。  
**啓介** お話をうかがっていると、僕は、小林さんが以前「先生」をされていたと

いうことも大きいと思うんですよ。たとえばハンディキャップの考え方にしろ、可能性を信じるという姿勢にしろ、まさに教育者の視点ではないですか。  
**小林** ああ、そうかも知れませんがね (笑)。  
**啓介** 大勢の生徒さんがいて、それぞれ得意不得意があるなかで、各々の良いところを見ようとする。これはハンディキャップの本質に近い感じがしますよね。  
**啓介** 今後はどういった活動をされていく予定ですか。  
**小林** 五日市のクラブで競技委員

田中星美堂薬局	柴崎町2-5-3 522-3913
特むし銘茶・海苔 菊川園	柴崎町2-5-6 526-2035
cafe COLORADO	柴崎町2-5-8 526-2285
マエダ文具店	柴崎町2-6-2 525-6584
スタジオ269	柴崎町2-8-10 527-0269
写真の工一ス	柴崎町2-9-2 523-0851
お食事処・飲み処 GOSAN	柴崎町2-9-27 526-2200
石原薬局	柴崎町2-10-3 523-4067
サイクルハウス 輪輪館	柴崎町2-12-17 522-8100
ビジネスHOTEL クボタ	柴崎町2-12-23 522-1122
いなげや 立川南口支店	柴崎町2-12-24 526-2947
白洋舎 立川諏訪チェーン店	柴崎町2-17-5 525-0036
ブックス しんあい	柴崎町3-1-1 527-6701
ロッテリア 立川南口店	柴崎町3-1-3 522-3928
割烹 紀の川	柴崎町3-4-3 525-5825
とんかつ専門 かつ亀	柴崎町3-5-2 525-7847
ヨシダ貴金属店	柴崎町3-5-4 522-2448
みゆり英・数・簿記 イスパニスタ	柴崎町3-6-3 522-2969
サンカメラ	柴崎町3-7-22 522-3336
東京都民銀行 立川支店	柴崎町3-9-21 522-7101

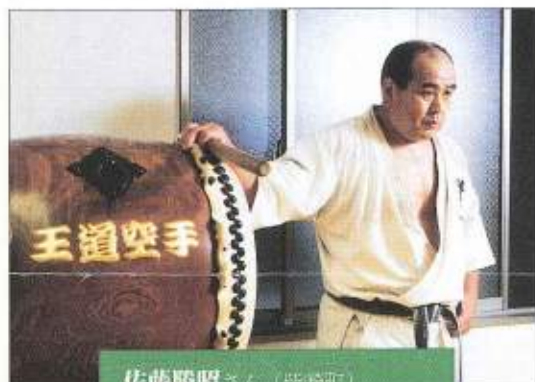
えくてびあんの輪  
人があて、街があります。  
あなたがあて、立川があります。  
そこにちょっとだけ、えくてびあん!  
リストのお店にはいつでも、えくてびあん!

あさひ銀行 立川支店	柴崎町3-10-1 522-4161
松山堂薬局	柴崎町3-13-25 522-2550
こむろ酒店	柴崎町3-14-3 522-2613
矢沢歯科眼科	柴崎町3-16-2 525-6600
ダイクマ 立川店	富士見町1-24-9 526-1161
手作りケーキの店 プティパニエ	富士見町1-31-19 529-8364
リーセントパークホテル	富士見町2-1-8 526-3111
JA経済センター立川店	砂川町2-44-3 536-1824
JA東京みどり立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
ペーカリー リオンドール	柏町3-3-5 535-4882
和菓子・甘味処 甘泉堂	曙町1-14-12 522-4305
不動産 大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
蕎麦 徳石 無庵	曙町1-28-5 524-0512
ピストロ シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
ロッテリア ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 524-7433
三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 527-5587
ルミネ立川店 2F 受付	曙町2-1-1-2F 527-1411
オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
印章 印徳 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-1260
朝日カルチャーセンター立川	曙町2-1-1-9F 527-6511

# こんな個性と出会う街

## 吉例「ベスト立川人・展」

新世紀に向かって着実に夢をつないでいる人。  
浮き足立つことなく飄々と自分を生きている人。  
新春吉例「ベスト立川人・展」に、  
今年もこんなにたくさんの個性が集まりました。  
西暦2000年の幕開けも、  
漲るタチカワ・エナジーに触れることから始めませんか？



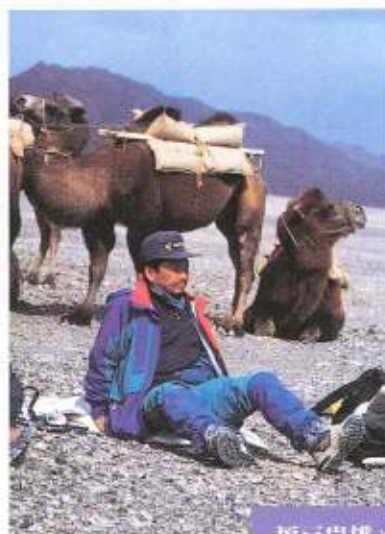
佐藤勝昭さん(柴崎町)

元極真空手世界チャンピオン。王道空手・日本空手道「佐藤流」の宗を開き、選手の育成に励む。



清水たみ子さん(芝罘町)

近代児童文学の金字塔「赤い鳥」が生んだ「最後の赤い鳥詩人」。今なお持ち続ける奇跡の感受性。



板戸岩雄さん(栄町)

シルクロード「西域南道」800キロをラクダに乗って横断。1ヶ月間の砂漠生活で広げた「幅の人生」。



川崎晴恵さん(幸町)

少女に宿った詩人の魂。母への想いをヴィヴィットに綴って「全国作文コンクール」特選入選。



天野行雄さん(栄町)

どこまで本気？ 遊びゴコロ満載の芸術家集団「日本物産観光」を主宰する気鋭のプレゼンター。



高島豊さん(柴崎町)

自宅敷地内に私設郷土資料館「馬場」を建設。地域のために何が出来るか、その信条は「相利共生」。



遠藤須磨江さん(若菜町)

初の作品集を出版。躍動感溢れる作風の「切り絵」は何と「六十の手習い」。立川きり絵友の会会長。



カミカゼ・ブルワーズ(羽衣町)

立川初の地ビール「カミカゼビール」は彼らの手で。マーク・ハモンさん率いる若きビール職人たち。



大河内二三子さん(高松町)

「普通のおばさん」たちが厳寒のドーバー海峡に挑む。往復横断にチャレンジしたチームリーダー。



伏野芳廣さん(富士見町)

卓球道50年に裏打ちされた熱意をもって市民スポーツ振興に深く貢献。ついに「文部大臣賞」受賞。



クロード・デコートさん(高松町)

高松町の美容室経営者はカナタ人彫刻家。世界遊学で得たバイタリティーでアーティスト道を貫く。

小松俊彦さん(羽衣町)

たかがコーヒー、されどコーヒー。マニアが高じて始めた豆売り専門店が、今や多くのファンを獲得。



## 第15回「ベスト立川人・展」

- 平成12年1月17日(月)～23日(日)  
午前10時～午後7時
- 立川駅ビル・ルミネ6F  
「ルミネギャラリー」

※初日は正午から、  
最終日は午後5時までとなります。

(西砂町)

小学生の頃から、立川にこの人ありと知られたカルタ取りの名人。その美奈子ちゃんがもう立川高校3年生になった。現在は受験のため一時カルタの方は休業しているが、大学合格と同時にその闘志はめらめらと燃えあがるであろう。幼稚園の頃から家で遊んでいるうちに自然に覚え、立川初心者大会にも参加。後に「府中白妙会」で元準名人の前田秀彦先生のもとで指導を受け、小学、中学を通じて全国大会で優勝している。表紙の写真、自然に手を合わせて祈るのは「合格」の一点であろうか。(於・面訪神社/撮影・細江英公)

# 東風

俗に運・根・鈍というが、われらが「ベスト立川人・展」も今年で十五回を数える。そして、今年の夏で「月刊えくてびあん」は十六歳を迎える。あと四年もすると「成人式」だ。よくぞ、続いてきたものという感慨も深い「運」に支えられてきたところも大きい。地域誌とかタウン誌というものは、初めの心意気が大きい分、すぐに企画倒れとなって中途挫折がほとんどだと聞か、えくてびあんの場合も正直、しばしば掲載企画に行き詰まったことがある。そういう場合に、ぶらりと終日、街を歩いていたこともあるし、ご相談に乗ってくださる方もいて窮地を救ってくださった。深謝◆先月の1日現在で、立川市民は16万2,237名、他に外国人が2,569名おられると立川市役所からうかがった。いよいよわが立川市も16万時代に突入した。えくてびあんを創刊した時には「立川15万人」と大雑把に記憶しているが、いつの間にか1万増えている。これだけ多くの潜在読者がいる地域誌を発行しているのかと思うと、なにやら「責任感」のようなものが湧いてくる◆今年もユニークな「立川人」と逢えるだろう。きっと、逢わせていただけるにちがいない。天の采配を待とう◆恵方道 手さぐりでゆく えくてびあん

【第二次えくてびあん同人】  
編集 新井紀美子/大久保清志/小林廣史/山田五郎  
デザイン 池田隆男/AMNET DF  
写真 中村 伸/五来孝平

## えくてびあん 1月号

第18巻 通巻186号  
平成12年1月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0065  
編集人/発行人 立井啓介  
印刷 (株)大廣社

## 第7回えくてびあん杯争奪 立川ペーパーごま選手権



久田雅夫選手  
動物写真家

第7回戦F組

須崎昭平選手  
(株)三昭 代表取締役社長



### 絶妙な「心理戦」に持ち込み、須崎選手一勝



今月も幼馴染み対決だ。両選手は砂川小学校(現八小)時代からの同級生。野生動物を追って野山を駆ける久田選手のパワーか、ゴルフでハンデ「0」という腕前を誇る須崎選手のテクニックか。期待渦巻く中、試合開始。お互い1ポイントずつ獲得後の3投目、久田選手のコマがスッポ抜け、須崎選手の右手にあたるという

ハプニングが発生。「オマエ、反則だろ!」との抗議に動揺したのが、その後久田選手のコマに勢いが消え、試合は須崎選手の一方向的展開に。開始後30分、ハプニングにもめげず冷静に実力を発揮した須崎選手の勝利で試合終了。ガッツポーズの須崎選手に対し「昔からワル知恵は働くんだよなあ」とは久田選手の弁。



## カレー&コーヒー あちゃ

錦町2-1-8 グリーンビル2F / 526-2278  
11:00 ~ 21:00 / 不定休

懐かしい「ガラクタ」があふれる  
時が止まったような店内  
味はカレー通を唸らす本格派



挽き肉とマイルドなルーがマッチした「キーマ・カレー」(800円)。辛さは好みでオーダーできる。



今から20年近く前、曙町に小さな喫茶店を構えていた山田勝八さん夫妻。ランチのメニューに出していた手作りカレーが予約がくるほどの好評を呼び、それならと錦町に越したのを機に専門店に。以来十数年、本場のカレーを味わえる店として愛されている。勝八さんが「自信があります」と語るカレーは、実際にご夫妻がネパールやインドを訪れて本場の味を確かめ、日本人向けにアレンジしたものだ。ルーの仕込み方法からスパイスの調合まで、全てこの店でしか味わえないオリジナル。その味は立川だけでなく、都内各地からカレー通がやってくるほど。エビ、ポーク、チキンなどの定番から、キーマ(挽き肉)やドライカレーも人気。本格派の味もさることながら、店内の雰囲気もまさにオリジナル。日本の古い置物や家具などが所狭しと並び、まるで「骨董屋」と見紛うほど。イスやテーブルも時代を感じさせるものばかりだ。勝八さんは「高価なものなんてひとつも無い。みんなガラクタなんです」と笑うが、一見バラバラに見えて不思議な統一感に満ちた雰囲気は、陶芸家の一面を持つ勝八さんの絶妙なセンスに買われている。クリエイターの客が多いのも頷ける。

真味百撰 33

## ゴロさんの独断毒語

⑥

# 創業者

ティッシュペーパーやビラを、この寒空に配っている人々を、駅周辺、北口大通りなどで毎日見かけます。それらを全部受け取っていたら、ポケットがばんばんに膨らんで始末におえないでしょう。私はなるべく、配っている人の前を避けて歩くようにしているのですが、テキもさるもの、どうしても受け取らざるを得ないような方法論を開発している人もいて、最近はやや手強いものがあります。ところで、要らないからといって、手を鼻の前にもってきて、左右に振って「要らない」という仕事だけはしないように努めております。何年か前に、錦町の三田鶴吉さんのお宅を訪ねた折、その話が出たのですが、わが鶴吉さんは、人から声を掛けられて、鼻の前で手を左右に振ることだけは決してしないとおっしゃっておられました。それというのも、ご自身がまだ、リヤカーを牽いて花を売り歩いておられたころ、ゆきづりの人に、——お花を一本、いかがですか?と声を掛けて歩きます。その時に「要らない」という印に、鼻の先に手を持ってきて左右に振

られる、——山田さん、こんないやな気持はありませんかでしたよ。ひとには、あのいやな思いをさせたくはないというお気持ちを話されておりました。同じ断るにしても、もっとヒューマンな断りかたがあるのではないか。私はその日以来、鼻先の手だけは止めるようにしているのですが、これは「鶴吉流」のマネに過ぎません。今日では「三田花店」といえば、この街で押

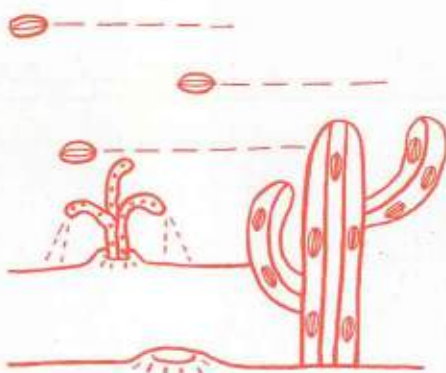


イラスト 幸子

すに押されぬ生花店として知られ、鶴吉さんご自身は全国規模の活躍をされ、それ故に国から表彰されるという、立川でも立派な人ですが、リヤカー時代のことは喜びも悲しみも、ひとから見れば些細なことを、その身でしっかりと覚えておられる。忘れようとしても忘れられないにちがいません。「創業者」とは、そういうものだろうと思います。現在、えくてびあんの表紙を撮影してくださっている細江英公氏も、今日でこそ「世界の英公」として高名な写真家ですが、まだ売れない頃には、どこにもご自分の作品を飾ってこれるところはなく、仕方なしに行きつけの床屋の壁に貼っておいてもらったことがある、とお聞きしました。初心忘るべからず、とよく云いますが、忘れようとして忘れられるものではないのでしょうか。それを私たちは単なる「美談」として聞き流しているから、いつまでたっても二流、三流から這いあがれない。今日も駅前ビラを配っているお兄さんとしてまいりました。鶴吉さんの笑顔がふつと浮かんでまいりました。(やまだこうろう・詩人)

## 華胥之夢

よい夢を見ること。中国最初の天子、黄帝が天下の治まらぬことを心配していた時、昼寝をして夢を見た。夢の中で黄帝は「華胥」という国に赴き、そこでは支配者はなく身分の上下もないとい

う理想政治を行っていたという。夢から覚めた黄帝は悟るところがあり、以来二十八年間、天下は立派に治まったという故事。昼寝をすることのたとえにも使われる。

立川に育てられて六十四年  
真如苑  
柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

世界の主要通貨、トラベラーズチェックはもちろん、ご希望の多いアジア通貨もその場で両替可能。

たましん  
ワールドキャッシュセンター  
ルミネ立川9F/バスポートセンター前  
営業日 月曜日～金曜日 (土・日・祝日は休業)  
営業時間 午前10時～午後4時  
TEL 042(523)0057

デジタルえほん  
メモリーブックにどうぞ...  
ミッキーやキティちゃんと一緒に...!!  
あなたの写真と名前が絵本の中に入ります。  
PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING  
大廣社 042-527-1911  
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13  
FAX. 527-1949  
E-mail JD105215@city.ne.jp

「北の熊谷・南の花園」と呼ばれるくらい、埼玉県熊谷市はラグビーの盛んな街として知られています。そのシンボルとなるような作品をとの依頼を受けて作りました。

以前にご紹介した「コロンブスとたまご」（11月号掲載）という作品と全体の形が似ています。若者へのメッセージを込めて作ったその作品同様、この像もテーマはズバリ「青雲の志」。ポールの上に立つ天を仰ぐ少年、

その姿に僕の考える若者像をたくしました。

駅前立つこの像の設置工事は、混雑する昼間をさけて真夜中に行いました。それでも予定より時間がかかり、工事が了ったのは朝の通勤通学時。ホトホト疲れていましたが、据え付けたばかりの像を女子高生たちが取り囲み「わあ、すごい！」。彼女たちの声を聞いて、疲れがいつべんに吹き飛びました。

(1996年制作・赤川政由)



# 赤川作品

## 十二撰 6

「ラグビーボールと少年」

埼玉県熊谷市・JR熊谷駅前